

第9回 糸魚川市教育委員会定例会会議録

1 日時 令和5年6月27日(火) 10時から

2 会場 糸魚川市役所 203・204会議室

3 出席委員 教 育 長 齋藤 修一
教育長職務代理 谷口 一之
委 員 齋藤 里沙
委 員 山本 修
委 員 楠 愛

4 委員以外の出席者

教育次長	磯野 豊		
こども課	課 長 嶋田 猛	課長補佐 室橋 淳次	
	係 長 関澤 仁		
こども教育課	課 長 古川 勝哉	参 事 小川 豊雄	
	課長補佐 川原 隆行	係 長 植木 靖英	
生涯学習課	課 長 山本喜八郎	課長補佐 伊藤 伸一	
文化振興課	課 長 嵐口 守	課長補佐 榊 正喜	
博物館	館 長 竹之内 耕		
書記	こども課主査 上原 奈穂		

5 報 告

報告第 25号 休校等について

報告第 26号 各課・機関所管事項について

6 会議録署名委員の指名 3番 山本委員

7 傍聴者 3人

教育長

こども教育課長

教育長

山本委員

令和5年第9回教育委員会定例会を開会する。

報告第25号休校等について、事務局の説明を求める。

(資料に基づき説明)

今ほどの説明について、ご質疑はないか。

1件目の事案はプレスリリースがされ、2件目の事案はプレスリリースがされなかったが、基準はどうなっているか。

こども教育課参事

1件目は2つの学年が関わっていたためプレスリリースをした。
2件目は1学年のみだったことと、新型コロナウイルスの報告が不要になったためプレスリリースを見送った。

山本委員
教育次長

複数学年で閉鎖になるとプレスリリースをするのか。

今までは全てプレスリリースをしてきたが、新型コロナウイルスが5類になったため、インフルエンザ同様の扱いとしてプレスリリースをしなかった。状況にもよるが、注意喚起をすることは重要なので、事務局内でプレスリリースの基準を明確にする。

教育長
委員
教育長

ほかにご質疑はないか。

(「なし」の声あり。)

質疑なしと認め、報告第26号各課機関所管事項について、事務局の説明を求める。

こども課 所管事項報告
こども教育課 所管事項報告
生涯学習課 所管事項報告
文化振興課 所管事項報告
図書館 所管事項報告
博物館 所管事項報告
市民会館 所管事項報告

教育長
齊藤委員

今ほどの説明について、ご質疑はないか。

キャリアフェスティバルいといがわは昨年度、保護者にも見てもらいたいという話があったが、今年度の計画はどうか。

こども課長補佐

そういった意見のほかに、2日間開催で広く市民の方にも見てもらいたいといった意見もあったが、参加事業者の対応が難しいこともあり、今年度も昨年度同様に計画している。

山本委員
こども教育課参事
山本委員

教科書展示会はどのように周知をしているか。

各学校を通じて、保護者にチラシを配布した。

市民に広く見てもらうことが大事なので、広報に掲載して周知してもらいたい。

谷口委員

高校魅力化コーディネーターと中学生の連携授業が能生中学校で開催されるが、ほかの中学校での開催予定等、今後の見通しはどうなっているか。

こども課管理係長

今回は能生中学校の要望により、先行して実施する。今後は糸魚川高校の生徒が糸魚川中学校へ出向き、中学生に勉強や高校で学んでいることを教える機会を夏休み期間に計画している。

教育長

2月の教育懇談会で幼稚園、保育園、小中学校、高校関係者に高校魅力化事業について、これまでの経過やコーディネーターを配置した市の考え方、実際の取組について啓発、紹介する機会を設けた。

その後、中学校長からこの取組を中学生につなげられないかと相談があった。能生中学校を皮切りに市内3中学校に広げていき、中学生の反応を確認したい。

楠委員 土曜自習室の利用者が少ない。対象者の想定や実際の環境、雰囲気はどのようなものか。

生涯学習課長補佐 見守りの大人が2人ほどいる。塾とは違い、積極的に教えることはせず、居場所づくりの役割を担っている。見守りは教員出身者もいて、質問をすれば教えてくれるが、なるべく自分で考えて自分の力で問題を解くことを見守ってもらいたいとお願いをしている。

教育長 周知方法と、利用者の年齢層はどのようになっているか。

生涯学習課長補佐 各学校を通じてチラシを配布している。児童館とのすみ分けをして、静かな環境を提供している。見守りの方からはもう少し利用してもらいたいという声を聞いているので、今後は利用者を増やすための工夫をしていく。利用者は小学生が主となっている。

また、昨年から始めた4日間の夏休み自習室は、小学生だけではなく、中学生、高校生も来ていて、高校生が小学生に勉強を教える姿も見られる。今年も継続していきたい。

山本委員 5月のいじめの認知件数が21件だったが、担当課としてどのように受け止めているか。

こども教育課参事 非常に増加しているが、各学校で細かいこともしっかりと認知し、対応している成果だと考えている。新型コロナウイルスが収束し、子どもたち同士の関わりが増えてくる中で、人間関係のトラブルが増加している可能性もあるので、学校と連携をとりながら指導を進めていく。

山本委員 学校がきちんと報告することはいいことだが、いじめはないに越したことはない。いじめの基本方針も改定されることから、いじめや不登校を未然に防ぐことに力点を置いてもらいたい。

また、私の知っている生徒が不登校だったが、カウンセラーや先生の支援で学校に通えるようになり、定期テストも受けられたと聞いた。対応をしっかりしてもらっている事例として紹介したい。

教育長 地道な取組の積み重ねがひとつのきっかけとなり、山本委員の情報提供のような事例につながる。担当者が子どもの心に寄りそうことを欠かしてはいけない。学校は行くべきだ、行かなければいけないではなく、子どもの心の固まっている部分をほぐすため、チャンスを見逃さずに働きかけをしたい。学校には行けなくても、校内の別室対応や適応教室に通えている子どもは家から離れて行動ができている。気になるのは家庭訪問をしなければいけない事例で、家庭にいる子どもたちが何を望んでいて、どういうチャンスを待っているのか内実を丁寧に見取る必要がある。その切り口のひとつとして、教育委員会では、小規模特認校の視察や不登校特例校の学習会、

	<p>フリースクールの情報収集、フリースクールを取り組んでいる学校の現地視察を早急に取り組むことにしている。7月には現地視察をして、まずは教育委員会が学習をして進めていきたい。教育委員にもぜひ参加してもらいたい。秋にはフリースクールにも視野を広げたい。</p>
齊藤委員	<p>いじめの認知件数に驚くが、じゃれあっていて、それがエスカレートしたような事案であれば、自分がされて嫌なことは人にしないとか、相手の気持ちに立って想像し、思いやることを学び、その場で起きたことを終息させていけばいい。ただ、この中に何回も同じことを繰り返している子どもがいるならば、起きたことだけでなく、何でその行動を起こしてしまうのか背景を丁寧に見てもらいたい。学校環境が合っていないとか、家庭環境に問題があるのか、環境要因も大切に見てもらいたい。</p>
教育長	<p>学校からの情報提供に対して、教育委員会の立場からさらに詳しく情報収集をしたい。単なる数ではなく、内実を掘り下げて丁寧に対応をしていく。</p>
こども教育課参事	<p>学校ではいじめ事案が発生すると、必ずいじめ防止対策委員会を設置し、対応する。場合によってはカウンセラー、相談員に入ってもらい、様々な角度から検討する。今後も背景を考えながら情報収集を集めていきたい。</p>
楠委員	<p>通級指導教室はどんな授業をしているのか保護者は見ることができるが、校舎内で実施している場合は送迎が不要なので、保護者はほとんど来ていない。ほかの学校から通っている場合は送迎があるので、授業風景を見ている。保護者には年に1回程度はどのような授業をしていて、自分の子どもがどのような状態で受けているのか見てもらいたい。自分の子どもに対して、どう支援していくかを考えるきっかけになるので、学校から保護者に声掛けをしてもらいたい。</p>
こども教育課長	<p>いつでも見てもらえるようになっている。保護者への周知方法や授業参観に参加してもらえるような機会の設定など通級指導教室担当者に働きかけをする。</p>
齊藤委員	<p>見ることで子どもを褒めるポイントが分かり、親が褒めることで子どもの自己肯定感が高まるので、前向きな誘い方をしてもらいたい。</p>
谷口委員	<p>地域の特別授業を実施するにあたり、ピックアップ授業プラン策定委員会が開催されているが、内容を知りたい。</p>
こども教育課係長	<p>ジオパーク学習の一環で「奴奈川姫」と「ヒスイ文化の発祥の地」の2つの観点から検討している。社会科の教科書には出てこないが、必修の授業、選択の授業として授業プランを立てたい。会議は5月から8月までの間で月に1回開催していく。</p>

谷口委員
教育長

県石ヒスイのこと、奴奈川姫のこともぜひ学んでもらいたい。
市内の子どもたちに学校間格差をなくし、共通して糸魚川について学んでもらいたい。昨年度は理科編だった、今年度は社会科編として2学期以降の学習で活かしたい。

齊藤委員

「もっと！アソビバ！」が今回初めての平日開催で、支援センターも開設している中での開催だったが、両者の違いなど分かったことがあれば教えてもらいたい。

こども課長補佐

子育て支援センターは第2土曜日の午前中が開設日で、今回アソビバと開催が重なった。支援センターに来られた方もいたが、その後、アソビバに行く方もいて、それぞれ使い分けて利用していると感じた。実際、参加者のアンケートには市内にこういった複数の居場所があると嬉しいという感想があった。支援センターの機能は相談支援を前面に出し、アソビバは誰でも自由にいられる居場所としての機能を主としたい。今回アソビバに助産師のコーナーを設けて、子どもの様子を見てもらった。気軽に相談できることも付け加えて、すみ分けをしながら、試行を重ねて進めていきたい。

齊藤委員

こども食堂連絡会は4団体を対象に開催したとあったが、春から中能生地区でこども食堂を開催しているはず。こういう活動はつながり合うことで継続していく力になる。既存の団体だけではなく、オープンに参加できるようになるといい。

こども課長補佐

4月30日に中能生地区でこども食堂の開催があったが、実施団体はこども食堂というより、地域との結びつきが強く、単発的な開催だと聞いたので連絡会には声掛けはしなかったが、定期的な開催をするのであれば今後は声掛けをする。団体の皆さんはそれぞれ悩みがあり、情報共有をすることで今後の活力となる。ほかにもそういった団体があれば働きかけをする。

楠委員

能生図書館の貸出冊数が増えているが、利用者がそれほど伸びていない状況を見ると、1人当たりの貸出冊数が多い。子どもがいる友人は20冊まとめて借りている。家でタブレットを見て過ごすより、もしかしたら読まないかもしれないが、とりあえず借りて帰るくらいの感覚で図書館の利用をするのもいい。市内に3館があるが、図書館ごとの特長はあるか。

生涯学習課長補佐

当市は貸出冊数に制限がない。他市の図書館の状況を聞くとそんなに多く貸出をしているところはないが、当市はどんどん借りてもらいたい。それぞれの図書館の特色としては、当市は地理的に広いので、ある程度のものは3館どこも揃えておきたい。合併前になるが青海地域は比較的文化系のものが多く、CDやDVDが充実していた。今後3館を維持するためにも図書館のあり方を検討する中で、特色ある図書館を念頭に置いて検討したい。

楠委員

図書館は取り寄せてもらうこともできるがあまり知られていな

齊藤委員

い。市にないものも県内から取り寄せしてもらえる。そういうことも発信してもらい、気軽に利用できる環境を作ってもらいたい。

キターレのまちなか図書館や、権現荘のおんせん図書館も面白い。まちなか図書館では自由研究に役立つような本が並ぶのもまさに特色と言える。おんせん図書館もそこならではのものを選書して、わざわざ行きたくなる企画になることを期待する。

教育長
委員

ほかにご質疑はないか。
（「なし」の声あり。）

教育次長

次回教育委員会定例会開催
令和5年7月26日(水) 10時から

その他 特になし

教育長

以上で、令和5年第9回教育委員会定例会を閉会する。

11:20 終了